ＴＹＭＣからのお願い・お知らせ

医療機関の先生へ

・地域連携専用　：　ＴＥＬ　**047−458−6543**　／　ＦＡＸ　**047−458−6545**
・受 付 時 間　：　月～金　9:00～16:00　／　土　9:00～11:30
＊日曜、祝日、毎月第３土曜日、12/5(創立記念日)、12/30～1/4(年末年始)はお休み
・診察は原則予約制ですので、必ず「紹介状」をご用意いただき事前に「予約」をお取りください。
・予約外の患者さんは予約患者さんの合間に診察となりますので、お待ちいただく場合がございます。
・紹介状をお持ちでない患者さんは、「初診時保険外併用療養費￥3,150」が自費でかかります。

電話予約センターについて

・専用電話番号　：　**047−458−6600**(患者さん専用)
・受 付 時 間　：　月～金　9:00～16:00　／　土　9:00～12:00(日曜、祝日、毎月第３土曜日は休日です)
＊日曜、祝日、毎月第３土曜日、12/5(創立記念日)、12/30～1/4(年末年始)はお休み
・予約時間等の変更時にも、必ず電話にてご連絡ください。

検査連携について

・検査連携は、医療機関からの依頼のみの受付になります。直接患者さんからの受付は出来ません。
・連携検査　：　ＣＴ・ＭＲＩ(単純)・ＲＩ・Ｘ−Ｐ(胸部)・マンモ・骨密度・セファロ　の画像検査のみ。

やちよ夜間小児急病センターについて

・専用電話番号　：　**047−458−6090**　(医療相談は行っておりません)
・受 付 時 間　：　３６５日　18:00～23:00
・事前の予約は必要ありませんので、直接ご来院ください。

編集後記

新年度を迎え、後期高齢者医療制度施行や診療報酬改正に伴い、各医療機関の先生方も対応にはご苦労なさったと思います。
とりわけ今回の改正は変更点も多く、今後の医療機関の運営はますます難しさを増すばかりです。
こうした社会情勢の中「連携」の重要性は増すばかりです、当院医療支援室も先生方とのより密接な「連携」を図り、よりよい地域医療を推進していきたいと考えています。
まだまだ至らぬ点も多いですが、今年度も宜しくお願いいたします。

さて、ご報告が遅れましたが去る2月10日に「やちよウィンターフェスタ2008」が開催されました。
夏のフェスタとは趣を変え、学術講演中心に行われました。学術講演5例・演劇「ダーリャンの河」とも、100名を超える方々にお越しいただき大変盛況となりました。

また、昨年も開催されました夏の「やちよ健康フェスタ」は、今年は7月27日（日）に実施されます。（まだ企画段階のものも多いですが）学術講演・児童向けのキャリア教育・屋外イベントなど盛りだくさんで行いますので、先生方もご家族連れでぜひお越しください。

医療支援室　地域医療連携　本藤　　潤

ウインターフェスタの様子

□ ご意見・ご感想は、電子メール（renkei-j@tymc.twmu.ac.jp）　または外来棟総合案内・入院棟総合案内前の『ご意見箱』へお気軽にお寄せください。お待ちしております！

東京女子医科大学 八千代医療センター 医療支援ニュース

greens

ぐりーんず

平成20年7月
年2回 発行

第２号
東京女子医科大学
八千代医療センター
医療支援室発行

地域社会に信頼される病院としての心温まる医療と急性期・高機能・先進医療との調和

「ＴＹＭＣの考える地域医療連携について
― 医療支援室長から地域の医療機関の先生方へのメッセージ」

副院長・医療支援室長
城谷　典保 医師

ＴＹＭＣの大切な機能のひとつに「医療連携」があります。それは、地域の医療機関がお互いに手を取りあって地域医療に取り組むことであります。最近ではマスコミなどでも話題になり、「地域連携医療」「地域循環型医療」「地域完結型医療」などの言葉がしばしば登場いたします。それだけ新しい医療の仕組みとして注目されています。

東葛南部地域において、ＴＹＭＣと地域の病院や診療所ならびに介護施設、訪問看護ステーションなどが相互に連携して地域住民の医療・介護・福祉などのサービスを総合的に行う仕組みづくりにご一緒に努力していきたいと考えております。

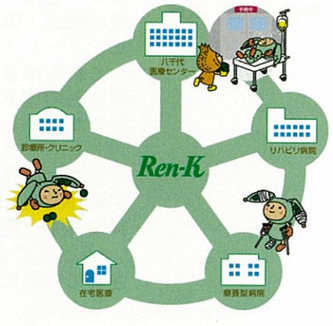
かかりつけ医の先生が診られている患者さんが、高度の診断や治療が必要な場合に、急性期病院のＴＹＭＣに紹介していただきます。その診断や治療が終了した場合には、それぞれの病状に応じて地域の医療機関にまた逆紹介いたします。医療サービスの多様化にともない医療機関はかつての総合病院のように、すべてがその施設で完結するような時代でなくなりました。急性期病院（例えばＴＹＭＣ）、回復期病院（リハビリ施設）、慢性期病院（療養型）、診療所（かかりつけ医）などがその機能や役割を分担するとともに、お互いが連携することでより良いサービスを提供することが大切と考えております。

そのような仕組みを作り上げることが、この地域の医療レベルの向上に役立つものと確信しております。ＴＹＭＣの医療支援室はそのような役割を担うために存在しておりますので、いつでもお気軽にお声をかけていただきたいと考えております。

医療支援室では、八千代医療センターにおける急性期の医療から、回復期、慢性期の医療へのスムーズな橋渡しの窓口としての役割を担うため、入退院コーディネーター、ソーシャルワーカー、地域連携担当事務員が在籍しております。患者さんにとってよりよい医療・ケアの提供ができるよう医師、看護師、各コメディカルスタッフ（リハビリテーション、管理栄養士、薬剤師など）とも連携し、病院や診療所など地域関係機関との協働を強化し、患者さんや家族を地域で支えていく療養環境の構築を目指して活動しています。

【医療支援室】

医療支援室長	：	副院長　城谷 典保
看 護 師 長	：	長井 浜江
ソーシャルワーカー	：	縄島 正之 ・ 村上 由香里
地域医療連携	：	本藤　潤 ・ 近藤 悦子 ・ 森園 眞佐子
		村松 明美 ・ 菅野 誠子



平成19年度（平成19年4月～平成20年3月）　病院年報（簡易版）

□外来・入院患者数

項目		年間	月平均
外来	初診	47,248	3,937
	再診	115,908	9,659
	述べ患者数	164,500	13,708
	救急車	4,427	369
	うち成人	3,267	272
	うち小児	1,160	97
	小児急病センター	9,221	768
	うちTYMC	4,350	363
	うち連携医師	4,871	406
入院	新規入院	6,269	522
	退院	6,186	516
	述べ患者数	72,973	6,081
	手術件数	2,705	225
	分娩件数	553	46

（単位：人）

□連携実績患者数

項目		医療機関数	患者数
前方連携	市内	177	6,695
	市外	1,397	5,444
後方連携	市内	116	2,157
	市外	447	2,492
転院	市内		186
	市外		145
検査連携（右ｸﾞﾗﾌ参照）	ＣＴ		322
	ＭＲＩ		366
	ＲＩ		11
	一般		11
	骨密度		1

□診療科別連携実績

前方連携	件数
小児科	1,540
眼科	877
整形外	836
母胎科	829
画像Ⅳ	739
循環内	706
消化内	677
耳鼻科	556
総救急	543
呼吸内	514
泌尿器	489
脳外科	460
歯口腔	370
神経内	342
糖代内	329
形成外	322
消化外	307
小児外	298
ﾘｳﾏﾁ内	217
腎臓内	194
女性科	191
婦人科	162
肝胆外	136
血腫内	132
皮膚科	106
新生児	79
乳代外	61
心身医	60
呼血外	50
麻酔科	17

後方連携	件数
画像Ⅳ	725
小児科	629
総救急	572
脳外科	312
神経内	281
整形外	262
呼吸内	259
循環内	222
眼科	193
消化内	137
耳鼻科	136
腎臓内	122
消化外	95
母胎科	92
形成外	89
糖代内	78
肝胆外	74
新生児	63
泌尿器	55
女性科	45
心身医	40
婦人科	32
乳代外	28
血腫内	23
ﾘｳﾏﾁ内	21
小児外	17
呼血外	14
歯口腔	13
麻酔科	12
皮膚科	8

リレーエッセイ　診療科紹介　～　小児科

寺井　勝　医師

小児科は、開院時よりフル稼働し、小児病棟（37床）および救急外来にて小児のケアを行ってきました。19年度は30,280名の外来患者、1,067名の入院患者の診断・治療を担当し、時間外救急患者は16,125名でした。この実績が認められ、千葉県より「千葉県全県対応型小児医療連携拠点病院」に指定されました。小児医療における当院が果たすべき社会的役割の大きさを感じています。

地域の行政課題であった小児救急システムの整備ですが、救急医療に特化せず、地域医療という大きな視点から医師会との連携を軸とした包括的小児医療のなかで解決していきたいと考えています。具体的なこれまでの活動は、地域医師会との循環型医療の推進・医師会医との並診によるトリアージシステムを機能させた「夜間小児急病センター」・医師会医との「公開カンファレンス（年10回）」による情報の共有です。

これらはまだ始まったばかりです。小児医療を当地に根付かせていくためには、医師会医の皆さんの役割の大きさを痛感している次第です。今後も更なる積極的なご支援をお願いしたいと考えています。

最後に小児科専門外来のご紹介をさせていただきます。
午後1時30分よりアレルギー、糖尿病・内分泌、心臓・川崎病・不整脈、腎臓、発達・神経外来（発達小児科）を設けています。

4月からの当院小児科は、小児科専門医6名・若手小児科医8名の計14名の陣容で対応させていただきます。　今年度も宜しくお願いいたします。

リレーエッセイ　診療科紹介　～　整形外科

山本　直也　医師

整形外科が扱う病気は、椎間板ヘルニアや腰部脊柱菅狭窄症に代表される脊椎（背骨）の疾患と変形性膝関節症や五十肩といった関節の疾患の２つに大きく分かれます。どちらも外傷（骨折、捻挫、脱臼）や腫瘍などもありますが、圧倒的に老化現象による病気が最も頻度が高いです。例えば、比較的若年者に多い椎間板ヘルニアも、椎間板の老化変性に基づくもので、椎間板の変性は早い人では十代後半から既に始まります。従って、治療しても病気が完全になくなるということはまれなことです。

治療の基本的方針は、病気についての正しい知識を持ち日常生活上の病気とのつきあい方を知って頂き、それに加えて薬物療法やブロック療法といった保存治療を優先し、これらで効果が得られない場合に手術的治療を選択します。術前検査も最新の診断機器を用いて、針を刺したり、造影剤を用いたりしない方法を開発しています。

脊椎では内視鏡手術や各種のインストルメントを用いた矯正固定手術、圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術などの最先端の治療を行なっています。手術の安全性を高めるため、手術中の脊髄機能モニタリングを積極的に用いています。合併症を持つ関節リウマチや、長期の透析による脊椎や関節の障害に対しても積極的に対応しています。
関節疾患は膝や股関節疾患の関節鏡手術、人工関節手術を行っています。

手術室も移動式CTやナビゲーションシステムなど最新の機械が導入されており、開院以来15ヶ月で脊椎手術は219例、外傷140例、人工関節25例、関節鏡14例など全440例となっています。

整形外科は患者さんの数が多いため、当院整形外科担当医6名と近隣の病院の先生方と密接に連携し治療にあたっていきたいと考えています。

リレーエッセイ　診療科紹介　～　画像・ＩＶＲ科

画像診断・IVR科？何をしている科なのかな、と疑問をもたれる先生方も多いと思います。
当科は、中央部門である画像診断部門としてＣＴ・MRI他の読影を行う画像診断科と、臨床科として外来・入院でIVR治療を行うIVR科の両方の業務を放射線診断専門医3名と錬士1名で行っております。

地域連携ではすでに多くの先生方にＣＴ、MRIをはじめとする画像診断を利用していただいております。地域連携を通して画像検査をご利用いただくと、面倒な事務手続きを省略でき、当日予約時間に患者さんに直接検査室へいらして頂くだけで、その日のうちに画像をお持ち帰りいただけるシステムです。ただし造影検査については患者ご本人の同意が必要となり、当科外来を受診していただくことになりますので、医療支援室へご相談ください。当日の緊急の検査も承っております。CT、MRI、マンモグラフィ、核医学いずれも最高水準の画像を御覧いただけます。

IVR科は当院の特色のひとつです。ASOのPTA、シャントPTA、HCCに対するTAE、肝疾患の門脈治療（TIPSやBRTOなど）、子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓（UAE）を得意としております。いずれも1-2泊の短い入院で治療を行っています。また、肝生検、肺生検、後腹膜リンパ節生検、ドレナージ、SVC症候群に対するstent挿入、食道stent、気管stent、PTCD、胆管stent、動注ポート挿入、IVCフィルター挿入などの依頼にも広く対応しています。
このほか喀血に対する気管支動脈塞栓（BAE）、外傷による骨盤骨折・肝損傷・脾破裂・腎破裂に対するTAE、などの緊急IVRにもオンコール体制で対応しております。
IVR科は毎日外来を行っています。たくさんのご紹介をお待ちしております。

画像・ＩＶＲ科における血管造影・血管内治療の様子

画像・ＩＶＲ科　遠田　譲